

鹿児島の 医療・介護

人材確保の今

課題解決に向けて

県で行っている医療・介護人材確保の取り組みをご紹介します。

医師の養成

鹿児島大学医学部と連携し、入学定員の枠を広げることで、県内で養成する医師を増やしています。

また、自治医科大学(栃木県)や鹿児島大学医学部において、将来、県内の離島やへき地で勤務しようとすると医師に対して、奨学金を貸与するなど、離島・へき地で診療を行う医師の養成に取り組んでいます。

若手医師の確保

医師になるためには、医学部を卒業し、医師免許を取得した後、2年間の初期臨床研修を修了しなければなりません。この初期臨床研修を確保するため、「県初期臨床研修医連絡協議会」を設置し、県内の病院や県医師会などとともに、オールかごしま体制で鹿児島での研修の魅力をPRしています。

新型「コロナウイルス」の影響で活動が制限される中、現在は主にSNSを使った取り組みを行っています。



▲県初期臨床研修連絡協議会公式ホームページ

現状と課題

鹿児島県は、南北600キロメートルに及ぶ広大な県土を有し、その中には離島へき地も多く存在しています。そのような中、本県の医師や看護師の人口当たりの総数は、全国平均を超えているものの、その多くが鹿児島市やその近郊に集中していることから、地方で働く医師・看護師は不足しており、長らくその地域的な偏在が課題となつていています。

また、介護人材については、県内の介護関係の有効求人倍率は、全産業より高い状態にあります。今後、後期高齢者の増加に伴い、介護に対するニーズはますます高まり、介護職員が不足することが予想されます。

新型コロナウイルス感染症拡大の経験も踏まえ、今後も引き続き、エッセンシャルワーカーとして私たちの社会を支える医療・介護人材の確保により力を入れることが必要です。

看護人材確保

看護人材の養成

看護師等(看護師・保健師・助産師・准看護師)養成所における教育内容の充実などのため、養成所の運営補助を行っています。

また、卒業後、県内もしくは、鹿児島市以外の地域での勤務を希望する方へ奨学金を貸与するなど、離島へき地で勤務する看護人材の養成に取り組んでいます。

離職の防止や復職の支援

病院内保育所の運営補助を行っているほか、新人看護職員等の卒後研修を支援するなど、看護人材がスキルアップしながらいきいきと働き続けることができる環境づくりに取り組んでいます。

また、県看護協会と連携し、ナースセンターを活用した再就業の支援に取り組んでいます。



▲見守りや面会を支援するロボット
(写真提供:アルテンハイム加世田)



▲ケア★スタの学校訪問授業の様子

介護人材確保

働きやすい環境づくり

介護職員の身体的負担の軽減や業務の効率化を図るため、ベッドから車椅子への移乗や、入浴・排泄介助、見守りなどを支援する介護ロボットの導入経費を助成しています。

また、介護記録・情報共有・報酬請求などの業務の効率化を通じて職員の負担軽減を図るため、介護ソフトやタブレット端末などのICTの導入支援に取り組んでいます。

★スタサミット」を開催するほか、県内の学校に訪問授業を行うなど介護の魅力を伝える活動をしています。「ケア★スタ(Care Star & Care Staff)」とは、きらきら輝く介護職をイメージした愛称です。県庁高齢者生き生き推進課の公式Facebookページ「クックやツイッターでは、ケア★スタでの取り組みを随时発信しています。

介護職の魅力を発信

県内の介護事業所で活躍する若手介護職員による意見交換会「ケア★スタサミット」を開催するほか、県内の学校に訪問授業を行うなど介護の魅力を伝える活動をしています。「ケア★スタ(Care Star & Care Staff)」とは、きらきら輝く介護職をイメージした愛称です。県庁高齢者生き生き推進課の公式Facebookページ「クックやツイッターでは、ケア★スタでの取り組みを随时発信しています。

～医療従事者へ敬意と感謝を～ クラップ・フォー・ケアラーズ CLAP FOR CARERS

県庁では、新型コロナウイルスが拡大する中、人命を守るために現場の最前線で献身的な努力をしていただいている医療従事者の皆様に、敬意と感謝の拍手を送る「クラップ・フォー・ケアラーズ」を毎週金曜日に実施しています。

